

桜花賞



第81回桜花賞(GI)優勝馬ソダシ



白毛馬が史上初のクラシック制覇

堂々のコースレコードで、史上初の白毛馬によるクラシック制覇が達成された。

祖母のシラユキヒメから受け継ぐ「奇跡の毛色」を身にまとったソダシは、デビュー戦で白毛馬初となる芝の新馬勝ちを果たすと、札幌2歳Sでは白毛馬初の芝の重賞勝ち。続くアルテミスSで重賞連勝を飾って迎えた阪神ジュベナイルフィリーズでは、白毛馬初のGI制覇という金字塔を打ち立て、無傷の4連勝で2歳女王に輝いた。

そんな白毛のプリンセスの3歳初戦、桜花賞。陽春の仁川に純白の馬体、メンコ、手綱で登場したソダシは、抜群のスタートから好位でレースを進めた。

逃げたストウーティをメイケイエールが外から交わしていき、1000m通過は56秒8。コース改修以降の桜花賞で最も速い流れを3番手の内で追走したソダシは、直線に向けて前が開くと積極的にスパート。残り200mで早くも先頭に立つと、追いつがるフェアリーS勝ち馬ファイナルージュとクイーンC勝ち馬アカイトリノムスメを力強い足取りで退ける。最後は阪神ジュベナイルフィリーズ2着のサトノレイナスが大外から猛然と追い込んできたが、これも抑えてゴール。前走はハナ差だったライバルとの着差は、今度はクビ差に広がっていた。

勝ちタイムの1分31秒1は従来の記録を0秒8も更新する驚愕のコースレコードだった。無敗の桜花賞制覇は前年のデアリングタクトに続く史上8頭目で、中118日は2019年のグランアレグリアを上回る最長レース間隔での優勝と、まさに記録づくめの戴冠となった。

無敗の2歳女王にも関わらず、この日は1番人気をサトノレイナスに譲り、2番人気に甘んじたソダシ。自身初のクラシック制覇となった吉田隼人騎手は「話題性だけで本当に強いのかと見られていたので、見返したいと思っていました」と勝利に胸を張った。常に注目されるプレッシャーを乗り越えたのは須貝尚介調教師も同じ。会見では「阪神のターフに真っ白な花を咲かすことができました」と声を震わせて喜んだ。



▲好位でレースを進めたソダシ(帽色・黒)は、抜群の手応えで4コーナーを回る。

▶従来の記録を大きく更新する驚愕のコースレコードで桜の女王となったソダシ。



第81回桜花賞(GI)

4/11 阪神競馬場 1600m(芝・右・外) 晴・良 18頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	ソダシ	牝	3	55	吉田 隼人	須貝 尚介	1:31.1	②	③③
2	サトノレイナス	牝	3	55	C.ルメール	国枝 栄	クビ	①	⑫⑫
3	ファイナルージュ	牝	3	55	福永 祐一	木村 哲也	1/2	⑧	⑥⑥
4	アカイトリノムスメ	牝	3	55	横山 武史	国枝 栄	クビ	④	③⑥
5	アールドヴィーヴル	牝	3	55	M.デムーロ	今野 貞一	3	⑤	⑧⑨
6	ククナ	牝	3	55	藤岡 佑介	栗田 徹	クビ	⑨	⑫⑫
7	ストウーティ	牝	3	55	岩田 康誠	奥村 豊	クビ	⑭	①②
8	エンスージアズム	牝	3	55	岩田 望来	安田 翔伍	1/2	⑮	⑪⑨
9	ホウオウイクセル	牝	3	55	丸田 恭介	高柳 瑞樹	3	⑯	⑮⑯
10	ミニーアイル	牝	3	55	藤岡 康太	武 幸四郎	ハナ	⑰	⑬⑪
11	ジネストラ	牝	3	55	北村 宏司	鹿戸 雄一	1/2	⑱	②③
12	ストライプ	牝	3	55	田辺 裕信	尾形 和幸	ハナ	⑬	⑮⑭
13	エリザベスタワー	牝	3	55	川田 将雅	高野 友和	ハナ	⑥	⑥⑪
14	ブルーバード	牝	3	55	柴田 大知	高橋 祥泰	2	⑳	⑬⑪
15	ソングライン	牝	3	55	池添 謙一	林 徹	1	⑰	⑪⑭
16	シゲルビシクルビー	牝	3	55	和田 竜二	渡辺 薫彦	2 1/2	⑩	③⑥
17	ヨカヨカ	牝	3	55	幸 英明	谷 潔	3	⑪	③③
18	メイケイエール	牝	3	55	横山 典弘	武 英智	アタマ	③	③①

単勝 ④360円 複勝 ④140円 ⑩130円 ②350円 枠連(2-8) 520円
馬連 ④-⑩670円 馬単 ④-⑩1,280円 ワイド ④-⑩290円 ②-④1,030円 ②-⑩950円
3連複 ②-④-⑩2,660円 3連単 ④-⑩-②10,400円

ハロンタイム 12.1-10.8-11.2-11.1-11.6-11.2-11.2-11.9
通過タイム 600m③34.1-800m④45.2-1000m⑤56.8-1200m⑥1:08.0-1400m⑦1:19.2

優勝馬 ソダシ

2018.3.8生 父クロフネ 母ブチコ 母の父キングカメハメハ
安平・ノーザンファーム生産 馬主:金子真人ホールディングス(株)